

時評

首相の現実感覚

やまうち まさゆき
山内 昌之

(東京大学大学院総合文化研究科教授)

歴史と政治は不即不離である。従って、歴史家に要請される現実感覚は政治家の場合にはもつと欠かせない資質となる。最近出された若い研究者によるイギリスの政治思想家アイザイア・バーリンに関する研究書は、政治家の成功と失敗の原因についても改めて考えさせてくれた。上森亮氏は「アイザイア・バーリン——多元主義の政治哲学」(春秋社)において、特定の政治や社会の状況を本質や輪郭とともに把握するアンテナと、それをもつ人びとについて指摘したバーリンの言を紹介している。こうした人びとは、政治的に優れた目や鼻や耳をもつのであり、愛や野心や憎悪が関係する政治感覚にもたけているといふのだ。

この種の人間には、難局や危険な状況が形づくる感覚にも、鈍らせる感覚にも、共に恵まれているのかもしれない。こうした特性について触れたバーリンは、政治家という職業が芸術家や創造的な作家がもつ才能や感覚とさして違わない才に恵まれる重要性を強調しながら議論を進めるのだ。上森氏は、この種の才能や感覚を政治家と並んで歴史家にも不可欠だという一方、科学者には必要のない才能だと語るバーリンの説に共感するようである。私もほとんど同感するほかない。

上森氏の書物を読みながら、沖繩や外交安保に限らず歴史の総合的な洞察力に欠ける鳩山由紀夫首相と現政権についてしばしば考えてみた。歴史の連続性や外交の現実性という鳩山政権の危うさは、そもそも難局や危険な状況に対応するセンスそのものが最初から欠けているのではないか、という疑いを国民にもたせている。政治家は、歴史上の人物から教訓や知恵を学ぶだけでなく、人の心理を洞察する訓練を積むべきであろう。理系出身でオペレーション・リサーチ専門の鳩山首相は、ひよっとして政治家がもつ科学的思考になじむべきだと信じているのかもしれないが、機械や実験室と、人間の思考構造は同じではない。理系出身者の閣僚のなかには、普天間基地問題への対応をめぐることも、沖繩や徳之島の住民の繊細かつ複雑な心性を理解できない人もいるようだ。しかし、繰り返し言うが、政治家や歴史家の資質は科学者の天分と異なるのである。バーリンは、日常生活、歴史学、法学、政治学の領域、つまり政治の総合的領域において極端なユートピア主義への特化、リアリズムの欠如、悪い判断がもたらされる条件が何かと問うている。そして、彼は答えとして、自然科学の方法の適用に失敗することなく、むしろ過度にその方法を適用しすぎる点こそ弊害をもたらすと強調しているのだ。政治家と庭師や料理人はまったく別種の職業のように思えて、その実は「即興の才能」に多くを負う点で共通しているという指摘は鋭いものだ。

「植物学は庭師の助けになり、栄養に関する法則は料理人を助けるかもしれない。しかしながら、過度にそうした科学に頼ることは彼らを、そして彼らの顧客を悲運へと導くだろう。今日においても料理人や庭師の卓越性とは美的才能、そして政治家と同様に、即興の才能に多くを負っているのである」(「現実感覚」、上森氏の訳による)。

鳩山首相の奇妙なデザインの内装趣味を知るだけで、氏に「美的才能」が欠如していることは、さしあたり議論する意味もない。しかし氏が、政治家に不可欠な判断力を支える「即興の才能」に恵まれないのは致命的というほかない。他者の発言や突発事件に対応できる瞬発力は即興の才能に属するものであり、政治家にいちばん要求される資質である。他方、現実社会で他人の存在を気にしない「自然科学の方法」は、政治での「思いつき」に役立つのかもしれない。しかし、思いつきだけでは、外交や安全保障の懸案を解決する手段とはならない。

また、政治家に欠かせないのは「運」である。バーリンがいうように、良き判断力をもつ政治家がいたとすれば、その人は判断力の鈍い人たちよりも「純粋な運」にも恵まれる場合もある。優秀な政治家は、優れた判断力をもっている以上、運にも恵まれているように思われる。むしろ、優れた政治家は運を自らたぐり寄せるといふべきだろうか。上森氏もバーリンに触発されながら、「運も実力のうち」という言葉に何がしかの真理が含まれていると指摘している。

しかし、沖繩や徳之島の歴史を学び県民の独特な心性を学ぶゆえに首相や官房長官は、現地の人間と付き合い説得するのにもつと慎重かつ繊細な現実的アプローチをとらなかつた以上、幸運の女神も訪れようもなかつたであろう。政権交代という強運を背負ったはずの政治家が自ら運を落とすオウンゴールを重ねるのも世界史では珍しい。結局のところ、あまりにも複雑な「クモの巣」を一挙に解きほぐすことはできない。

沖繩問題・日米安保・連立内閣はそれぞれ大きな論点であり、一度にすべてをテストすることはむずかしいのだ。それをわざわざ関連づけることで最初から問題をややこしくした点は現実感覚の欠如の最たるものである。現実感覚を欠いた計数工学者は超一流の天才になれるかもしれない。しかし、この工学者は二流の歴史家にさえないのである。ましてや、このような人物が二流の政治家になれる保証はどこにもない。

日本政治が陥った混迷と絶望は果てしない。